郷土色豊かな山北の流鏑馬
松原省吾写真展

「鎌倉花めぐり」（2004年～2017年鎌倉朝日8面に連載）や本紙で鎌倉の年中行事の撮影を担当している松原省吾さん（87）が、「足柄・氏子流鏑馬～古儀を守り続ける人たち」の題で写真展を開く。

県西の山北町・室生神社例祭（例年11月3日）で氏子たちが行う流鏑馬で、その過程のドキュメンタリーをまとめた。

この流鏑馬の起源は建久元年（1190年）9月源頼朝が鎌倉・鶴岡八幡宮で流鏑馬を催した際、平氏に味方し囚われの身であった河村城主河村義秀が妙技を披露し厚免され、旧領・河村郷（現山北町）に復帰できたという故事によるとされ、室生神社の流鏑馬は800年余りの歴史がある。射手が氏子に限定され、露払いの先導と射手の2頭立てで騎射が行われることが特徴。県の無形民俗文化財に指定されている。

流鏑馬に関わる氏子たちの姿や、山北のサクラや稽古が行われる富士山の麓の風景写真など作品55点をオールカラーで展示。

8月1日～7日新宿区四谷の日本写真会館・ポートレートギャラリー。午前10時（土日祝11時）～午後6時（最終日は3時）まで。同ギャラリー☎03・3351・3002

絵画・工芸の力作一堂に
第54回鎌倉美術展

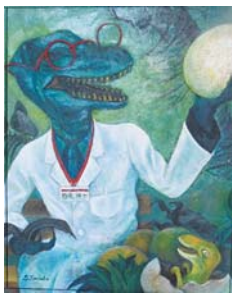
鎌倉美術家協会（沼田正太郎理事長・会員約150人）主催の第54回鎌倉美術展が6月28日～7月4日、鎌倉芸術館で開かれ、約2500人が来場した。

日本画・洋画・工芸（染織・陶芸）の各部門で公募の88点と会員の作品142点の合計230点が展示された。

鎌倉朝日賞には洋画の2作品が選ばれた。

「恐竜博士」は額縁までもキャンバスとして取り込むダイナミックな個性が光る作品で、「とにかく楽しく描いた」と笑顔の冨岡澄恵さん（70・鎌倉）。イタリアの「アンティークマーケット」を長年のテーマに描いてきた冨田多佳子さん（69・鎌倉）は「セピアトーンに色調を抑えることで時の流れや丹念な暮らしぶりを表現し

「アンティークマーケット」冨田多佳子



「恐竜博士」冨岡澄恵

た」と話し、受賞を喜びあっていた。

主な受賞者は次のとおり▽笹りんどう賞＝佐藤静穂（日本画）池田茂（洋画）関口典子（工芸）▽協会賞＝伊藤進矢（工芸）▽会員賞＝久保田純子（日本画）氏家直子（洋画）三橋泰栄（工芸）▽会友賞＝菊池由紀（洋画）山本志保（工芸）▽県知事賞＝芳賀徹（洋画）▽市長賞＝滝沢武道・和久井正男（洋画）▽鎌倉朝日新聞社賞＝冨岡澄恵・冨田多佳子（洋画）▽ホルベイン賞＝平沢研三・石原幹廣（洋画）▽クサカベ賞＝鎌田浩子・佳吉順一（洋画）▽マツダ賞＝小林秀雄・森智枝（洋画）▽トップアート賞＝海老原君子（日本画）▽アートフレーム賞＝森綺衣（日本画）葛西正敏（洋画）▽シンリュウ賞＝石原弘行・岩井忠彦（工芸）▽コビトのくつ賞＝猿渡繁人（洋画）【敬称略】

まちの安心安全をお手伝い
鎌倉ガーディアンズ10周年

鎌倉の警備・防犯・パトロールなどをボランティアで行っている鎌倉ガーディアンズ（大津定博代表・会員約120人）の結成10周年の総会が7月7日鎌倉市福祉センターで行われた＝写真。

活動報告や10年の歩みの画像、新聞記事なども投影され、松尾崇鎌倉市長や震災以降交流している熊本市から東京事務所の田上聖子所長も出席。会員らと親交を温めた。

同会は2009年7月の鎌倉花火大会の警備ボランティアの団体として発足。市内の催しの警備や安全指導、ノウハウを活かした警備マニュアルも作成している。

『谷戸の風』当選者発表

鎌倉朝日7月号の山内静夫著『谷戸の風』（冬花社刊）読者プレゼントに多数の応募ありがとうございました。抽選の上、次の5名に送付しました。

市田はな（鎌倉）小島静江（鎌倉）三枝太郎（逗子）内田美代子（金沢区）菱倉員文（藤沢）【敬称略】

本紙連載の「谷戸の風」はしばらく休みます。

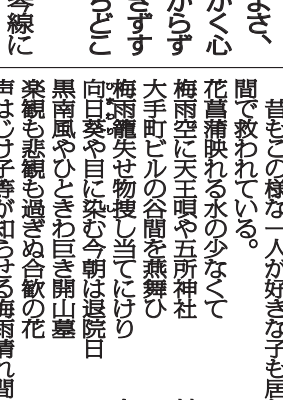
文学つれづれ ⑰⑤
吉川英治『宮本武蔵』（一）

赤羽根龍夫

「二十一歳遅くはない」と武者修行、というより剣による精神修行に旅立とうとする武蔵の袖をつかんだのはお通だった。お通は武蔵を千本杉から救い出し手に手を取り合って一緒に逃げ出したが、武蔵は沢庵によって姫路城の天守閣に幽閉されてしまった。お通は花田橋の麓で3年の間、武蔵を待ち続けた。

吉川武蔵の人気は武蔵と同時に武蔵を慕うお通のような女性像を造形できたのであろうか。そこに母の姿があった。

吉川英治は、少年の頃から貧乏な家計を支えるために、様々な仕事を転々とした。横浜造船所に工員として働いていた19歳の時、工事現場から落ちて瀕死の重傷を負った。最愛の母は必死に英治を看病した。『忘れ残りの記』に次のようにある。



姫路城をみつめるお通の像

ぼくにとっての母は、たしかに恋人以上の何かを持っていたのだろう。特に又、この病室での印象が濃く…

また別のところでは、ぼくの作品の中に必ず織り込んであるのは、骨肉愛ですよ。そこでぼくはもう駄目なんだよ。

しかしお通造形の底にいたのは母だけではなかった。英治の最初の結婚相手は芸者であった。最初は収入の少ない英治の、家庭を顧みない創作活動と別の芸者との交情、高価な骨董収集。妻の、芸者時代の友を交えての花札あそびとヒステリー。

その間も英治の旺盛な創作活動と「大衆こそ叡智である」の信念の元、大衆文学擁護の評論活動は続いた。そんな中『宮本武蔵』の連載は昭和10年8月から始まった。

直接には菊池寛と直木三十五の「武蔵は名人かそうでないか」との評価をめぐっての昭和7年に始まった論争に吉川英治が加わり、「ぼくは作家だから小説で書く」と書き始めた。最初は朝日新聞社内では今さら講談の主人公でもあるまいという反対の声が大きかった。しかし連載が始まると大評判となった。

その頃、英治は生涯の伴侶となる池戸文子と会う。文子は家が貧しく料亭で働いていた。そこに英治が見初めて通った。英治は文子に「永遠の女性」を見た。

文子は当時16歳であった。すでに『宮本武蔵』の連載は始まっていたが、後にお通を16歳としている。

連載が中断された昭和12年、やすの浮気を直接の原因として離婚。文子と結婚する。

文子について川口松太郎は最初に受けた感銘を次のように記している。

美しさに驚いただけではなく、気品のある容姿もさることながら、身につける物の好みのよさ、持ち物の末にも細かく心が配られ、背も高からず低からず、痩せすぎずふとらずして、非の打ちどころのない姿だ。

多くの日本人の琴線にふれたお通造形の底には母と文子がいたのである。

（神奈川歯科大名誉教授）

鎌倉朝日歌壇

香山　静子　選

天の川を見上げて夫と短歌を詠む七十路われら今宵たなばた　葉山町　近藤美知子

御夫婦の素敵なダベに拍手を送りたい。江の島の天台山なる六地蔵欠けたお顔で海見てござる　片瀬　中村　喬

軽いユーモアに魅力がある。明月院ブルーは見えずとりどりの雨傘の色に埋まる境内　大船　小笹岐美子

確かに紫陽花ではなく人間を観に行っているよう。紅色の糸の集まるように咲く合歓の花目にやさしく揺れる　逗子市　湊　美根子

あぢさゐの花枝のごとき日傘咲くつゆの晴れ間の明月院に　辻堂　柳　蒼柳

紫陽花の藍のしずくに袖濡らし追いかけおりぬ雲の行方を　逗子市　木村　勲

咲きほこる色とりどりの紫陽花の奥に聞こえるせせらぎの音　梶原　中澤　二郎

古井戸に瓜冷やしたる夕暮につるべ落として涼の音聞く　葉山町　近藤　純

日傘とは影を持ち歩く感じです老舗傘店の主の言葉　扇ガ谷　鈴木　久子

谷戸道のあぢさゐの青深まりて関東地方の梅雨明け近し　今泉台　下田　和夫

大雨を物ともせずに乱舞する群れ飛ぶ燕の力強さよ　藤沢市　三浦　和子

鎌倉朝日俳壇

星野　高士　選

〈天〉雲水の袈裟の袂に秋の風　葉山町　近藤　純

秋風も雲水と知っている様に袈裟の袂に入り込む。

〈地〉白シャツの吸ひ込まれゆく始発駅　本鵠沼　森田　順子

白シャツに混雑した車内の雰囲気がよく出ていた。

〈人〉蟠り一気に消えて大夕立　笹目町　出蔵かおる

夕立は一瞬沢山降ってきてすぐに止む。蟠りなどは小さい事だと思ったのであろう。

白南風に朝どり野菜多くなり　城廻　塩田　文子

白南風の頃、朝どりの野菜も美味しさを取り戻す。

将棋さす父の背中の蚊遣香　大船　添田　洋子

父の背中と蚊遣香の煙りも見て父の元気な姿に安堵。

梅雨晴間一人遊びの砂場の子　笹田　上田　満喜

昔もこの様な一人が好きな子も居た。梅雨の一瞬の晴間で救われている。

花菖蒲映れる水の少なくて　城廻　小美野京子

梅雨空に天王頭や五所神社　材木座　羽賀　一男

大手町ビルの谷間を燕舞ひ　手広　高口　道宏

梅雨籠失せ物捜し当てにけり　金沢区　岩澤　正春

向日葵や自に染む今朝は退院日　梶原　吉田　健二

黒南風やひときわ巨き開山墓　藤沢　春山　多喜

楽観も悲観も過ぎぬ合歓の花　藤沢　楓野あさ子

声はじけ子等が知らせる梅雨晴れ間　藤沢　三浦　和子

朝刊のページの重さ梅雨深し　片瀬　國安　佳子

戦禍の灯守る観音梅雨夕焼　鵠沼桜が岡　一色千穂子

暑き故取捨選択の物並べ　逗子　佐藤　信子

梅雨晴るるけはひにうごく谷の靄　逗子　塩谷あい子

あぢさゐやデイサービスの手みやげに　今泉　小林刀羊子

万緑やダム放水にあがる声　腰越　松原　薫

鎌倉朝日 発刊協力グループ
朝日新聞サービスアンカー

ASA鎌倉小町
材木座一―一〇―三七―一〇三
☎22―3236

ASA鎌倉中央
長谷一―一―九
☎22―1004

ASA北鎌倉
大船一―二三―一六松栄ビル3F
☎38―7322

ASA鎌倉深沢
常盤一四七―二
☎31―1444

ASA大船西部
玉縄一―一四―一
☎46―6068

ASA大船南部
大船一―二三―一六松栄ビル3F
☎38―7322

ASA大船中央
大船一―二三―一六松栄ビル3F
☎38―7322

ASA腰越
藤沢市鵠沼藤が谷一―一三
☎0466―27―8716

ASA藤沢南部
藤沢市鵠沼藤が谷一―一三
☎0466―27―8716

ASA藤沢東部
藤沢市弥勒寺三―二二―一一
☎0466―22―7409

ASA湘南鵠沼
藤沢市鵠沼海岸二―一―一一
☎0466―34―6924

ASA逗子
逗子市久木一―一―一一
☎046―871―2368

ASA東逗子
逗子市沼間一―四―四
☎046―871―6845

ASA葉山
三浦郡葉山町堀内一八〇八
☎046―875―0515

ASA金沢八景
横浜市金沢区六浦一―二一―一三
☎045―782―2859

ASA大船北部
横浜市栄区笠間四―一一―九
☎045―891―0986